

# 修正前

## 日本語要旨（ファイル名「9475.docx」）

に「そのもの」に限られてきた。それに対し、本稿では食品の安全性評価が「そのもののリスク」と「取扱のリスク」からなることを示し、それらの心理プロセスを解明した。リスク分散仮定とその応用を鑑みて、安全性およびそれに関連する各種手続きに関する事項についての視角の重要性を指摘した。同時に、FS各主体のいずれにおいても、取扱安全感がそのものの安全感より優位に貢献している事実を明らかにし、安全性評価において取扱が重要であることを示した。

1行空け 註釈文は本文末、10 ㉦ MS 明

(註1) ここでの情報開示とは、例えば消費者向けの場合、商品への直接表示やラベル、店頭での表示、またはトレーサビリティ・システムなどによる、事後的な情報確認も含めた情報提供全般を指している。

23(4): 781-789. <https://doi.org/10.1111/1539-6924.00355>. 英文文献は TNR10 ㉦

西川篤行ら(2008)「食品購買の選択要因と安全性情報」『フードシステム研究』15(3): 128-193. [https://doi.org/10.5874/jfsr.15.3\\_128](https://doi.org/10.5874/jfsr.15.3_128)

原則、著者は2名までは記載し、それより多い場合には適宜略すことも可。

Pearson, D., J. Henryks, and H. Jones (2011) Organic Food: What We Know (And Do Not Know) About Consumers, *Renewable Agriculture and Food Systems* 26(2): 171-177. <https://doi.org/10.1017/S1742170510000499>. doiがある文献は記す

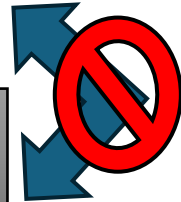
齊藤実(2008)「フードシステムにおける情報と垂直的調整」西郷隆・大山岩男編著『フードシステムの理論と体系』筑波書房: 102-115.

食品検討会議(2009)「食の安全性に対する意識調査



### 様式が一致

※論文要旨については、紙幅の都合上でフォントが異なる



### 様式が不一致

## 日本語報告論文（ファイル名「9498.docx」）

3. 結論

1行空け

最後に、まとめとして本稿で得られた含意について述べたい。

従来のリスク研究では、リスク評価の対象に「そのもの」に限られてきた。それに対し、本稿では食品の安全性評価が「そのもののリスク」と「取扱のリスク」からなることを示し、それらの心理プロセスを解明した。リスク分散仮定とその応用を鑑みて、安全性およびそれに関連する各種手続きに関する事項についての視角の重要性を指摘した。同時に、FS各主体のいずれにおいても、取扱安全感がそのものの安全感より優位に貢献している事実を明らかにし、安全性評価において取扱が重要であることを示した。1行空け 註釈文は本文末、10 ㉦ MS 明

(註1) ここでの情報開示とは、例えば消費者向けの場合、商品への直接表示やラベル、店頭での表示、またはトレーサビリティ・システムなどによる、事

までは記載し、それより多い場合には適宜略すことも可。

Pearson, D., J. Henryks, and H. Jones (2011) Organic Food: What We Know (And Do Not Know) About Consumers, *Renewable Agriculture and Food Systems* 26(2): 171-177. <https://doi.org/10.1017/S1742170510000499>. doiがある文献は記す

齊藤実(2008)「フードシステムにおける情報と垂直的調整」西郷隆・大山岩男編著『フードシステムの理論と体系』筑波書房: 102-115.

食品検討会議(2009)「食の安全性に対する意識調査の分析結果報告(平成20年12月調査)」

<http://www.fsc.go.jp/monitor/2012kokumoni-houkoku.pdf> (2010年5月閲覧)。インターネット上のものについてはURLと閲覧した年月を記載。URLが見づらくなる場合は改行する。その他様式は、投稿規定及び最新刊に従う。印刷時は写真製版によりB5に縮小されるので留意。

## 日本語投稿論文（ファイル名「9501.docx」）

1行空け 註釈文は本文末、10 ㉦ MS 明

(註1) ここでの情報開示とは、例えば消費者向けの場合、商品への直接表示やラベル、店頭での表示、またはトレーサビリティ・システムなどによる、事後的な情報確認も含めた情報提供全般を指している。

(註2) 媒介変数を経由する総合効果とは、複数の説明変数が特定の媒介変数を通じて目的変数に及ぼす効果の合計であり、媒介変数が関与する心理プロセスの影響力を示すものである。

1行空け

引用文献 引用文献見出し MS ㉦ 10 ㉦

伊藤真紀子・長澤英行・今野正一(1996)「食と農業における情報の非対称性の存在と弊害」『フードシステム研究』3(1): 4-15. 和文文献 MS 明 10 ㉦、英数字は半角 TNR10 ㉦。すべての文献(和文・英文含めて)を筆頭著者のアルファベット順に並べる。

Johnson, B. B. (2003) Further Notes on Public Response to Uncertainty in Risks and Science, *Risk Analysis* 23(4): 781-789. <https://doi.org/10.1111/1539-6924.00355>. 英文文献は TNR10 ㉦

註釈と引用文献において、インデント（ぶら下げ幅）に違い  
⇒報告論文投稿時の様式ミスが多発している状況  
※英語要旨では報告論文様式と一致しているため、問題が発生していない

### 日本語要旨 (ファイル名「9475.docx」)

に「そのもの」に限られてきた。それに対し、本稿では食品の安全性評価が「そのもののリスク」と「取扱のリスク」からなることを示し、それらの心理プロセスを解明した。リスク分散仮定とその応用を鑑みて、安全性およびそれに関連する各種手続きに関する事項についての視角の重要性を指摘した。同時に、FS各主体のいずれにおいても、取扱安全感がそのものの安全感より優位に貢献している事実を明らかにし、安全性評価において取扱が重要であることを示した。

1行空け 註釈文は本文末、10<sup>ホ</sup>MS明

(註1) ここでの情報開示とは、例えば消費者向けの場合、商品への直接表示やラベル、店頭での表示、またはトレーサビリティ・システムなどによる、事後的な情報確認も含めた情報提供全般を指している。

23(4): 781-789. <https://doi.org/10.1111/1539-6924.00355>. 英文文献はTNR10<sup>ホ</sup>

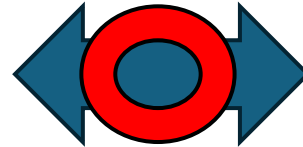
西川篤行ら(2008)「食品購買の選択要因と安全性情報」『フードシステム研究』15(3): 128-193. [https://doi.org/10.5874/jfsr.15.3\\_128](https://doi.org/10.5874/jfsr.15.3_128)

原則、著者は2名までは記載し、それより多い場合には適宜略すことも可。

Pearson, D., J. Henryks, and H. Jones (2011) Organic Food: What We Know (And Do Not Know) About Consumers, *Renewable Agriculture and Food Systems* 26(2): 171-177. <https://doi.org/10.1017/S1742170510000499>. doiがある文献は記す

齊藤実(2008)「フードシステムにおける情報と垂直的調整」西郷隆・大山岩男編著『フードシステムの理論と体系』筑波書房: 102-115.

食品検討会議(2009)「食の安全性に対する意識調査



### 見やすさの観点からも報告要旨、投稿論文における註釈と引用文献の様式に統一

### 日本語報告論文 (ファイル名「9498(日本語報告論文\_修正版).docx」)

は、そのものの安全感より大きかったことから、取扱安全感が全体安全感に対して強く影響していることが示された(表1)。さらに、肯定的感情がそのものの安全感を経由して、最終的な全体安全感が常感に至っていることが認められた。当初設定された8つの説明変数のうち、生産者で有意なもの「法令順守」などの6変数であり、そのうち「外国産肯定」は負の影響を及ぼしていた(註2)。

1行空け

3. 結論

1行空け

最後に、まとめとして本稿で得られた含意について述べたい。

従来のリスク研究では、リスク評価の対象に「そのもの」に限られてきた。それに対し、本稿では食品の安全性評価が「そのもののリスク」と「取扱のリスク」からなることを示し、それらの心理プロセスを解明した。リスク分散仮定とその応用を鑑みて、安全性およびそれに関連する各種手続きに関する事項についての視角の重要性を指摘した。同時に、FS各主体のいずれにおいても、取扱安全感がそのものの安全感より優位に貢献している事実を明らかにし、安全性評価において取扱が重要であることを示した。1行空け 註釈文は本文末、10<sup>ホ</sup>MS明

(註1) ここでの情報開示とは、例えば消費者向けの場合、商品への直接表示やラベル、店頭での表示、またはトレーサビリティ・システムなどに

おける情報の非対称性の存在と非善」『フードシステム研究』3(1): 4-15. 和文文献MS明10<sup>ホ</sup>、英数字は半角TNR10<sup>ホ</sup>。すべての文献(和文・英文含めて)を筆頭著者のアルファベット順に並べる。

Johnson, B. B. (2003) Further Notes on Public Response to Uncertainty in Risks and Science, *Risk Analysis* 23(4): 781-789. <https://doi.org/10.1111/1539-6924.00355>. 英文文献はTNR10<sup>ホ</sup>

西川篤行ら(2008)「食品購買の選択要因と安全性情報」『フードシステム研究』15(3): 128-193. [https://doi.org/10.5874/jfsr.15.3\\_128](https://doi.org/10.5874/jfsr.15.3_128)

原則、著者は2名までは記載し、それより多い場合には適宜略すことも可。

Pearson, D., J. Henryks, and H. Jones (2011) Organic Food: What We Know (And Do Not Know) About Consumers, *Renewable Agriculture and Food Systems* 26(2): 171-177. <https://doi.org/10.1017/S1742170510000499>. doiがある文献は記す

齊藤実(2008)「フードシステムにおける情報と垂直的調整」西郷隆・大山岩男編著『フードシステムの理論と体系』筑波書房: 102-115.

食品検討会議(2009)「食の安全性に対する意識調査の分析結果報告(平成20年12月調査)」

<http://www.fsc.go.jp/monitor/2012kokumoni-houkoku.pdf> (2010年5月閲覧). インターネット上のものについてはURLと閲覧した年月を記載。

URLが見づらくなる場合は改行する。

その他様式は、投稿規定及び最新刊に従う。印刷時は写真製版によりB5に縮小されるので留意。